

# 検査情報月報



2012  
2013  
6月

横浜市衛生研究所

# 平成24年6月号 目次

## 【トピックス】

- シックハウス対策検査 ～未規制化学物質 2-エチル-1-ヘキサノール～ …… 1
- アレルギー物質を含む食品の検査結果(その1) …… 3

## 【感染症発生動向調査】

- 感染症発生動向調査委員会報告 平成24年5月 …… 5

## 【情報提供】

- 衛生研究所WEBページ情報(平成24年5月分) …… 10

# シックハウス対策検査

～未規制化学物質 2-エチル-1-ヘキサノール～

近年、室内空気中に放散した化学物質で居住者等の体調不良を引き起こす「シックハウス症候群」に関する問題が多く報告されています。このシックハウス症候群の発生を予防するには、建材や家具等から室内空気中へ放散される化学物質を低減化していく必要があります。そこで、厚生労働省(以下、厚労省と略します)は13化学物質の室内濃度指針値を定め、シックハウス対策の一環としました。しかし、室内空気中に存在する化学物質はこれらの13化学物質だけではなく、建材や什器等の使用状況によっては室内空気中に未規制化学物質が多量に存在することもあります。

当所が公共建築物におけるシックハウスに関連する異臭等苦情の原因究明調査を行ってきた中で、未規制化学物質である2-エチル-1-ヘキサノール\*1(以下、2E1Hと略します)の検出が認められた事例が2例ありました。国内では他都市において過去にも2E1Hが原因の室内空気汚染事例があり、室内空気中の2E1Hに関する研究がすすめられています。そこで、当所では、それぞれの事例に関して数年後に追跡調査を実施しました。今回はこれらの苦情事例および追跡調査結果を紹介します。

## 【事例1：公共建築物A施設内 D、E会議室 2005年8月異臭苦情調査、2010年1月追跡調査を実施】

### (1)室内空気中の化学物質濃度調査(2005年)

異臭苦情があったD、E会議室のうち、D会議室は換気設備を稼働、E会議室は換気設備を停止させた上で各室の室内空気中化学物質濃度測定を行いました。厚労省が室内濃度指針値を示した13物質のうち、今回測定を行った8物質<sup>注)</sup>についてはD、E両会議室とも指針値を超える物質はありませんでした。D、E両会議室にて室内濃度が最も高かった物質は2E1Hであり、A施設における異臭の原因物質と考えられました。また、換気設備を稼働させたD会議室の2E1Hは、換気設備を停止させたE会議室に比べて低い数値を示していました(表)。このため、会議室内の換気を充分に行うように助言を行いました。

### (2)バッグ法\*2による化学物質放散量調査(2005年)

2E1Hが会議室内のどこから放散されているか放散源究明調査を行いました。会議机からは室内濃度指針値に影響を及ぼすような値の物質は認められませんでした。一方、カーペットからは2E1Hが試料1枚(10cm×24.8cm)あたり110 $\mu$ g検出されたため、2E1Hの放散源はカーペットであると考えられました。

### (3)小形チャンバー法\*3による2E1Hの放散速度調査(2005年)

そこで、カーペットについて、13日間の小形チャンバー測定を行い、放散速度の推移を調べました。測定最終日の時点において2E1Hの放散は継続する傾向を示していました(図)。

### (4)室内空気中の化学物質濃度調査(2010年)

2005年調査時と同じ室、同じ条件で測定を行いました。厚労省が室内濃度指針値を示した13物質のうち、今回測定を行った8物質<sup>注)</sup>についてはD、E両会議室とも指針値を超える物質はありませんでしたが、D、E両会議室にて2E1Hが検出され、他の物質よりも高い濃度を示していました。しかし、2005年の調査時と比較すると、2E1Hの濃度は低下していました(表)。当施設は前回の調査以降、会議室未利用時においても換気設備を終日稼働しており、この効果が現れたと考えられました。

### (5)小形チャンバー法による2E1Hの放散速度調査(2010年)

カーペットについて、2010年には28日間の小形チャンバー測

表 室内空気中2E1H濃度

| 事例1：公共建築物A施設                       |                  | 事例2：公共建築物B施設                       |                  |
|------------------------------------|------------------|------------------------------------|------------------|
| 2E1H室内濃度( $\mu$ g/m <sup>3</sup> ) |                  | 2E1H室内濃度( $\mu$ g/m <sup>3</sup> ) |                  |
| 会議室D<br>(換気設備稼働)                   | 会議室E<br>(換気設備停止) | 会議室F<br>(換気設備稼働)                   | 会議室G<br>(換気設備停止) |
| 測定時期                               |                  | 測定時期                               |                  |
| 2005.08                            | 225              | 2005.11                            | 7.0未満            |
| 2010.01                            | 24               | 2009.03                            | 3.5              |

※2005.11と2009.03については分析条件が異なるため、定量下限値が異なります。  
(2005.11の定量下限値は7.0 $\mu$ g/m<sup>3</sup>、2010.03は2.6 $\mu$ g/m<sup>3</sup>)

定を行いました。測定最終日の時点において2E1Hの放散は継続する傾向を示していました(図)。しかし、2010年の調査における放散速度の値は2005年と比較すると小さくなっていましたことから、2010年におけるカーペットからの2E1Hの放散は、会議室の約4年間の終日換気のなかで、非常に緩やかに減少しつつも継続していると考えられました。

**【事例2:公共建築物B施設内 F、G会議室 2005年11月異臭苦情調査、2009年3月追跡調査を実施】**

**(1) 室内空気中の化学物質濃度(2005年)**

異臭苦情があったF、G会議室のうち、F会議室は換気設備を稼働、G会議室は換気設備を停止させた上で室内空気中化学物質濃度測定を行いました。厚労省が室内濃度指針値を示した13物質のうち、今回測定を行った8物質<sup>注)</sup>についてはいずれの測定場所においても指針値を超える物質はありませんでしたが、換気設備を停止したG会議室の総揮発性有機化合物\*<sup>4</sup>(以下、TVOCと略します)が563 μg/m<sup>3</sup>と厚労省が示した暫定目標値の400 μg/m<sup>3</sup>を超過しました。換気設備を稼働したF会議室は2E1Hが不検出であり(表)、その他も濃度が目立って高い化学物質はありませんでしたが、換気設備を停止したG会議室にて濃度が最も高かった物質は2E1Hであり、異臭の原因物質と考えられました。

**(2) バッグ法並びに小形チャンバー法による放散量および放散速度(2005年)**

B施設のカーペットについて、バッグ法により化学物質の放散量を測定しましたが、2E1Hの放散は認められず、室内濃度指針値に影響を及ぼすような値の物質も検出されませんでした。さらに、7日間にわたり小形チャンバー法にてカーペットからの2E1Hの放散速度を測定した結果、測定開始後1、3 および7日目の値はすべて不検出でした。この事例において、異臭の放散源は特定できませんでした。

**(3) 室内空気中の化学物質濃度(2009年)**

2005年調査時と同じ室、同じ条件で測定を行いました。厚労省が指針値を示した13物質のうち、今回測定を行った8物質<sup>注)</sup>については、いずれの測定場所においても指針値を超える物質はありませんでした。2005年調査と比較すると換気設備を停止したG会議室のTVOCは39 μg/m<sup>3</sup>と濃度が減少し、暫定目標値を下回りました。また、2E1Hについても濃度の低下が認められました(表)。築4年が経過して、施設内の換気に伴い2E1Hを含む化学物質の初期の放散がほぼ終了しつつあるものと考えられました。

注)厚労省が指針値を示した13物質のうち、今回測定を行った8物質：

ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン、テトラデカン

**【 環境衛生担当 】**

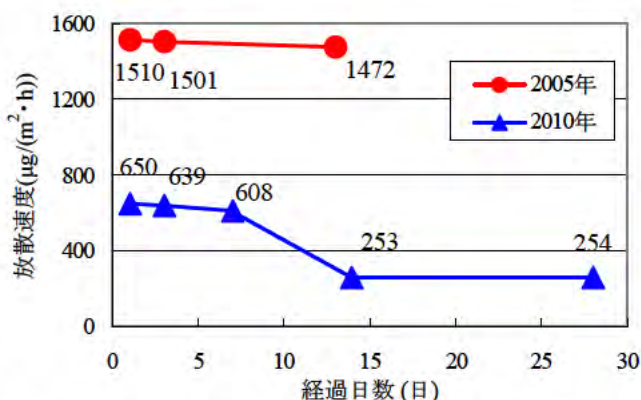


図 小形チャンバー法によるA施設カーペットからの2E1H放散状況の推移



- \*1 2E1Hの毒性について：眼、皮膚、気道への刺激。吸入や経口摂取によりめまい、頭痛、咳、咽頭痛、脱力感。(東健一、他「建築に使われる化学物質辞典」風土社 より引用)  
国内では過去にも2E1Hが原因の室内空気汚染事例が起きたことがあり、現在でも研究が進められています。(上島通浩、他「2-エチル-1-ヘキサノールによる室内空気汚染 室内濃度、発生源、自覚症状について」第52巻日本公衆衛生学会誌 第12号 平成17年12月15日)
- \*2 バッグ法：試料を一定容積のバッグに入れて密封し、放散した化学物質量を測定する方法<無換気のときの放散の全量がわかります>
- \*3 小形チャンバー法：一定温湿度、一定換気状態における試料からの化学物質放散量の経時変化を測定する方法<換気をしつづけたときの放散量の変化がわかります>
- \*4 TVOCについて：室内空気中の揮発性有機化合物の総量。本調査においては、ガスクロマトグラフ質量分析計で測定を行った揮発性有機化合物43物質(この中に2E1Hは含まれていません)の合計値としました。

# アレルギー物質を含む食品の検査結果(その1)

平成13年4月、食物アレルギーを持つ人の健康危害を未然に防止する観点から、アレルギー物質(特定原材料)を含む食品に表示が義務付けられました。現在、特定原材料として卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かこの7品目が指定されています。

平成24年4月に健康福祉局食品専門監視班が通信販売で買い取りした食品について小麦の検査を行いました。また、平成24年5月に健康福祉局食品専門監視班が市内の飲食店から収去した食品について卵と小麦の検査を行いました。

## 1 小麦の検査(通信販売)

小麦粉の代用として多く販売されている米粉についての実態を調査するため、通信販売で買い取りした20検体について小麦の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、2検体(製菓用米粉1検体と食パン用米粉1検体)で陽性(10ppm以上)となりました。その他の18検体は陰性(10ppm未満)でした(表1)。

スクリーニング試験で陽性となった2検体については、PCR法による確認試験でも陽性でした。

陽性となった製菓用米粉は、インターネット上では小麦不使用となっていたようですが、買い取りした製品の原材料表示に小麦グルテンの記載があるものでした。陽性となった食パン用米粉は、この製品の製造前に小麦を含む製品を製造しており、製造過程によるコンタミネーションが原因と判明しました。

表1 小麦の検査結果(平成24年4月分)

| 食品 | スクリーニング試験 |     | 確認試験 |     |
|----|-----------|-----|------|-----|
|    | 検体数       | 陽性数 | 検体数  | 陽性数 |
| 米粉 | 20        | 2   | 2    | 2   |
| 合計 | 20        | 2   | 2    | 2   |

## 2 卵の検査(店舗販売)

飲食店で収去したポテトフライや唐揚げ等15検体について、卵の検査を行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 卵の検査結果(平成24年5月分)

| 食品     | スクリーニング試験 |     | 確認試験 |     |
|--------|-----------|-----|------|-----|
|        | 検体数       | 陽性数 | 検体数  | 陽性数 |
| ポテトフライ | 7         | 0   | 0    | 0   |
| 唐揚げ等   | 8         | 0   | 0    | 0   |
| 合計     | 15        | 0   | 0    | 0   |

## 3 小麦の検査(店舗販売)

飲食店で収去したポテトフライや唐揚げ等13検体について、小麦の検査を行いました。

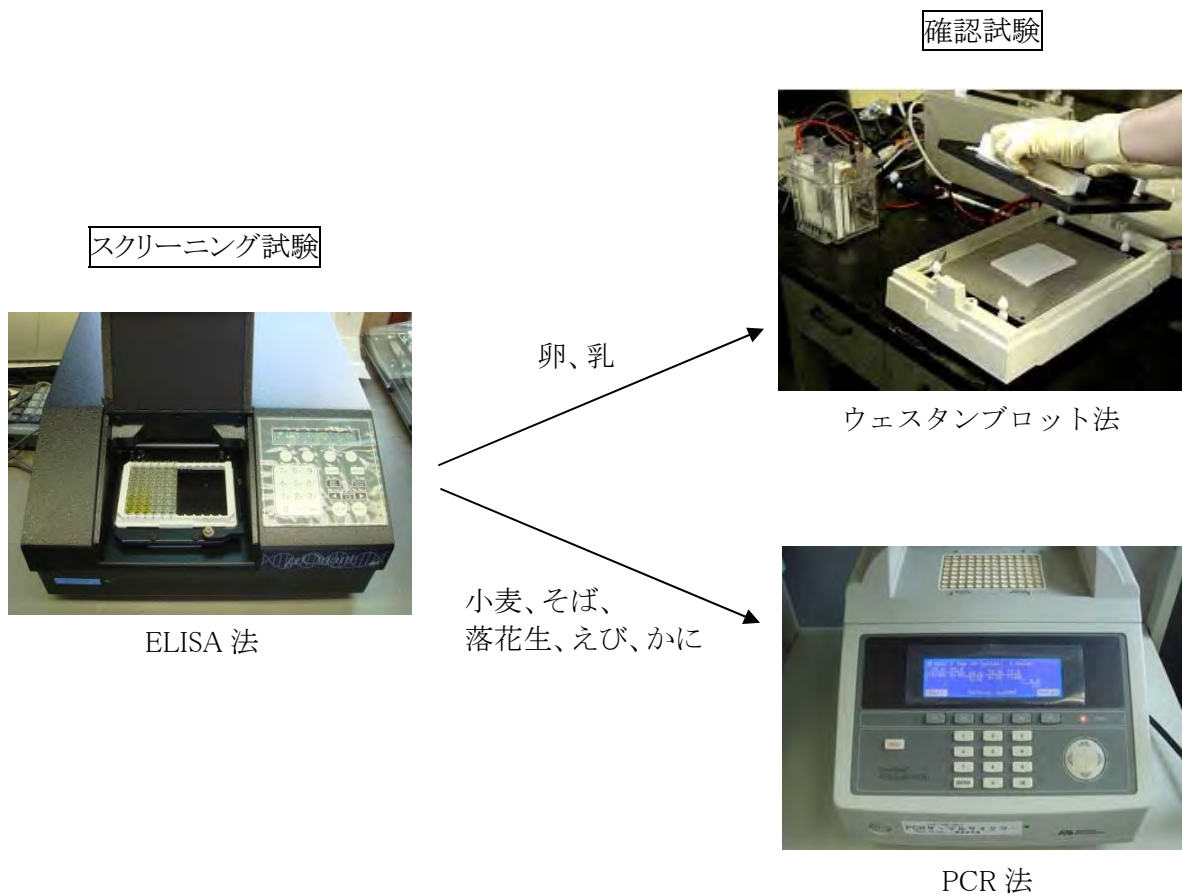
ELISA法によるスクリーニング試験の結果、唐揚げ等2検体で陽性(10ppm以上)となりました。その他の11検体は陰性(10ppm未満)でした(表3)。

スクリーニング試験で陽性となった2検体は、PCR法による確認試験でも陽性を確認し、現在原因を調査中です。

表3 小麦の検査結果(平成24年5月分)

| 食品     | スクリーニング試験 |     | 確認試験 |     |
|--------|-----------|-----|------|-----|
|        | 検体数       | 陽性数 | 検体数  | 陽性数 |
| ポテトフライ | 6         | 0   | 0    | 0   |
| から揚げ等  | 7         | 2   | 2    | 2   |
| 合計     | 13        | 2   | 2    | 2   |

※ ELISA法によるスクリーニング試験は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法ですが、食品の加工度合いや使用原材料によっては、偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となった場合は確認試験を行っています。確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かには、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認しています。



【 検査研究課 食品添加物担当 】

# 感染症発生動向調査委員会報告 5月

## 《今月のトピックス》

- マイコプラズマ肺炎の報告数が昨年と比べて多い状況が続いています。
- 感染性胃腸炎の報告数が例年に比べて多い状態が続いています。
- 夏季に向けて、腸管出血性大腸菌感染症や咽頭結膜熱などに注意が必要です。

## 全数把握疾患

### <コレラ>

O1エルトル小川型の報告が1件ありました。マレーシア(コタキナバル)での経口感染が推定されています。

### <腸管出血性大腸菌感染症>

3件(O157 H7VT2 2件、O157 VT1VT2 1件)の報告がありました。O157 H7VT2の2件は、妻の発症(横浜市内での感染が推定されていますが、明らかな感染原因不明)後、接触者検診で夫の感染(無症状保菌者)が確認されたものです。O157 VT1VT2の1件は国内での感染が推定されていますが、明らかな感染原因は不明です。本疾患は例年夏季に感染者数のピークを迎えるので今後の注意が必要です。通常、菌は家畜の腸内に存在し、新鮮な肉を購入しても表面に菌が付着している可能性があり、生肉を切った包丁やまな板の洗浄・消毒や、焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策が重要です。また菌は熱に弱いので、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)し、生肉や加熱が不十分な肉を食べないことが大切です。特に抵抗力の弱い乳幼児や高齢者で重症化することがあるので注意しましょう。また、感染者から2次感染することがあり、予防には手洗いが重要です。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

### <A型肝炎>

2件の報告がありました。うち1件の遺伝子型はI aでした。どちらも国内での経口感染が推定されていますが、明らかな原因は不明です。

### <レジオネラ>

肺炎型2件の報告がありました。1件は横浜市内での水系感染(自宅浴槽からLAMP法でレジオネラ陽性)、もう1件は神奈川県内での塵埃または水系感染(こちらも自宅浴槽からLAMP法でレジオネラ陽性)が推定されています。同居家族の明らかな感染は認められませんでした。レジオネラ肺炎では、2~10日程度の潜伏期間の後、全身倦怠感、筋肉痛、頭痛、高熱等の症状を呈します。β-ラクタム系及びアミノ配糖体系抗生物質は無効で、マクロライド系、ニューキノロン系等が有効です。入浴施設の利用歴等の確認が重要です。

### <アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症3件の報告がありました。1件は国内での性的接触による感染、1件は感染地域、感染経路とも不明、もう1件は中国での経口感染が推定されています。

### <急性脳炎>

30代の報告が1件ありました。病原体、原因等不明です。

### <クロイツフェルト・ヤコブ病>

1件の古典型クロイツフェルト・ヤコブ病の報告がありました。手術歴、渡英歴等ありませんでした。

### <後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

1件の無症候期の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

## 定点把握疾患

平成24年4月23日から平成24年5月27日まで(平成24年第17週から平成24年第21週まで。ただし、性感染症については平成24年4月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成24年 週一月日対照表

|      |            |
|------|------------|
| 第17週 | 4月23日～29日  |
| 第18週 | 4月30日～5月6日 |
| 第19週 | 5月7日～13日   |
| 第20週 | 5月14日～20日  |
| 第21週 | 5月21日～27日  |

### 1 患者定点からの情報

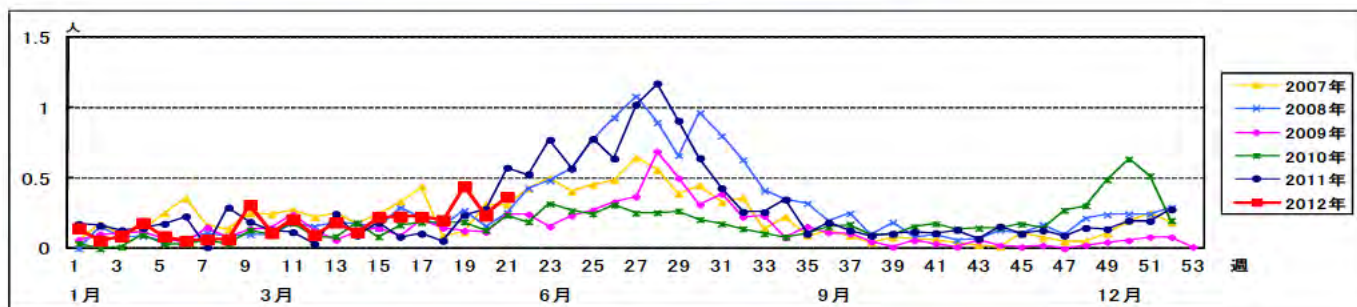
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

### <咽頭結膜炎>

市全体で第21週0.37と落ち着いており、区別にみても流行はみられません。ただ、例年夏季に流行する疾患なので、今後の注意が必要です。本疾患は発熱、咽頭炎、眼症状を主症状とし、プールでの感染も多く見られることからプール熱とも呼ばれています。原因ウイルスはアデノウイルス3型が主ですが、1、4、7、14型も知られています。特に7型は乳幼児や老人では重篤な症状となることがあるので注意が必要です。予防対策は、うがいや手洗いが重要です。また、プールの前後はシャワーをよく浴びるようにしましょう。学校保健安全法上は、第二種の学校感染症に分類され、出席停止の対象となっており、登校基準は「主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止とする。ただし、病状により伝染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。」とされています。

◆国立感染症研究所:咽頭結膜熱とは

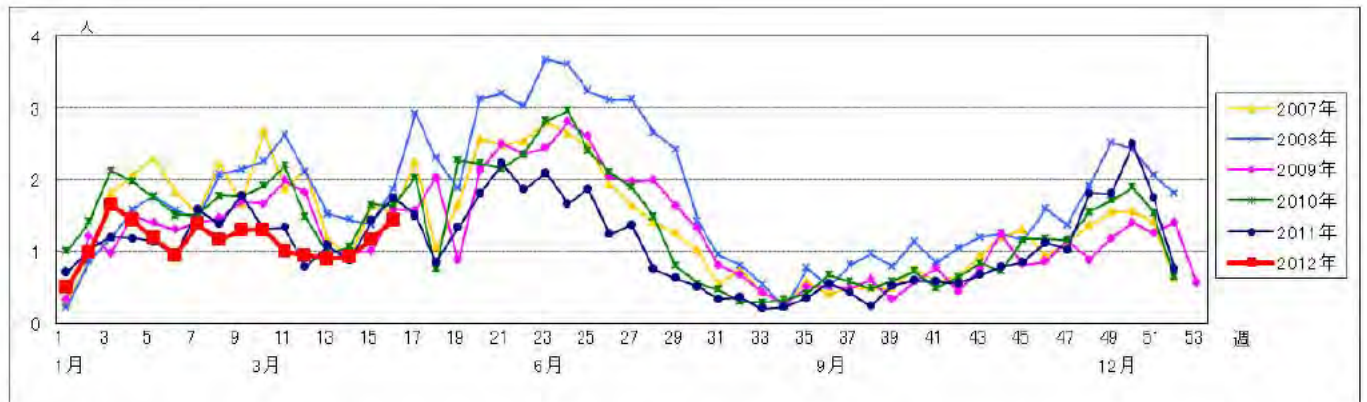
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/adeno-pfc/392-encyclopedia/323-pcf-intro.html>



### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

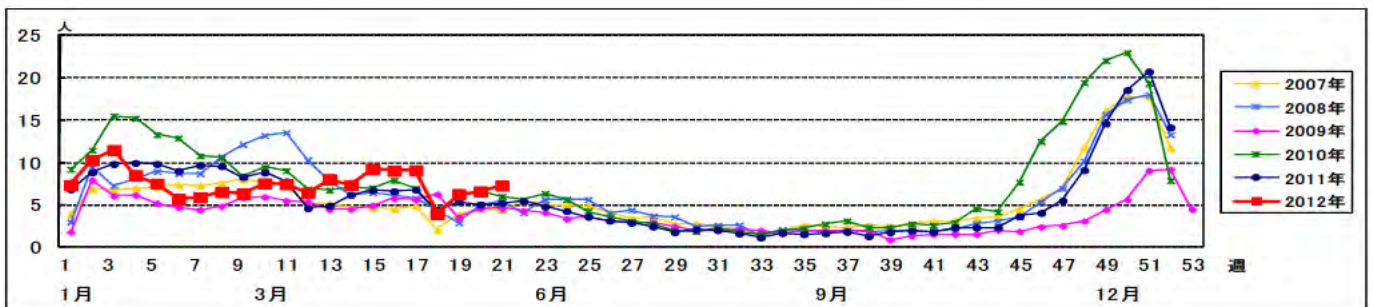
市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり 8.0 以上)を大きく下回っていますが、第18週 0.44、第19週 1.28、第20週 1.96、第21週 2.18と若干増加傾向です。例年5月～8月にかけて報告数が増加するので、今後の注意が必要です。





< 感染性胃腸炎 >

市内全体、区別でも警報レベル(定点あたり20.0以上)を大きく下回っていますが、例年に比べて報告数が多い状態が継続しており、集団発生の報告もあることから引き続き注意が必要です。



< 性感染症 >

4月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が10件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が12件、女性が0件でした。

< 基幹定点週報 >

マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60~1.40(例年定点あたり0.2~0.6程度で推移)と増加しました。最近では、18週0.66、19週0.74、20週0.79と落ち着いてきたものの、例年を上回る状態が持続しています。横浜市でも第18週0.00、19週0.00、20週1.00と、前シーズンの第18週0.00、第19週0.00、第20週0.00をやや上回っています。細菌性髄膜炎が17週に1件(乳児。原因菌は肺炎球菌。小児用肺炎球菌ワクチン3回接種歴あったものの、ワクチンと血清型が異なっていました。)ありました。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

< 基幹定点月報 >

4月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症7件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

### <ウイルス検査>

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点51件(鼻咽頭ぬぐい液46件、ふん便5件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点10件(鼻咽頭ぬぐい液4件、髄液4件、ふん便2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎26人、下気道炎14人、胃腸炎5人、インフルエンザ2人、発疹症3人、耳下腺炎1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点は髄膜炎、脳炎、脳症、不明熱、発疹症、血小板減少性紫斑病各1人でした。

6月11日現在、小児科定点のインフルエンザ患者2人と気管支炎患者2人からインフルエンザウイルスB型、上気道炎患者2人からアデノウイルス2型とアデノウイルス3型、耳下腺炎患者1人からムンプスウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の胃腸炎患者1人からロタウイルスA群、下気道炎患者1人からメタニューモウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

5月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が17件、定点以外の医療機関等からは7件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7、VT2、O165:H-,VT2)、腸管病原性大腸菌(O128:H2)、チフス菌、サルモネラが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から12件で、A群溶血性レンサ球菌、インフルエンザ菌が検出されました。基幹およびその他の医療機関等からは3件で、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(5月)

感染性胃腸炎

| 検査年月<br>定点の区別<br>件数 | 5月  |    |      | 2012年1月～5月 |    |      |
|---------------------|-----|----|------|------------|----|------|
|                     | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科        | 基幹 | その他* |
| 菌種名                 |     |    |      |            |    |      |
| 赤痢菌                 |     |    |      |            |    | 2    |
| 腸管病原性大腸菌            |     |    |      |            | 1  |      |
| 腸管出血性大腸菌            |     |    | 2    |            |    | 8    |
| 腸管毒素原性大腸菌           |     | 1  |      |            | 1  |      |
| チフス菌                |     |    |      |            | 1  |      |
| パラチフスA菌             |     |    |      |            | 2  |      |
| サルモネラ               |     |    |      |            | 20 | 3    |
| コレラ菌                |     |    | 1    |            |    | 2    |
| 不検出                 | 0   | 5  | 4    | 0          | 64 | 8    |

その他の感染症

| 検査年月<br>定点の区別<br>件数        | 5月  |    |      | 2012年1月～5月 |    |      |
|----------------------------|-----|----|------|------------|----|------|
|                            | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科        | 基幹 | その他* |
| 菌種名                        |     |    |      |            |    |      |
| A群溶血性レンサ球菌                 |     |    |      | 4          |    |      |
| T1                         |     |    |      |            |    |      |
| T6                         | 1   |    |      | 2          |    |      |
| T4                         |     |    |      | 2          |    |      |
| T12                        | 2   |    |      | 10         |    |      |
| T25                        | 1   |    |      | 1          |    |      |
| T28                        | 1   |    |      | 3          |    |      |
| T B3264                    |     |    |      | 3          |    |      |
| B群溶血性レンサ球菌                 |     |    |      |            |    | 11   |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌             |     |    |      |            | 3  |      |
| バンコマイシン耐性腸球菌               |     |    |      |            | 1  | 2    |
| インフルエンザ菌                   |     |    |      | 6          |    | 2    |
| 肺炎球菌                       | 1   |    |      | 2          |    |      |
| 黄色ブドウ球菌                    |     |    |      | 1          |    |      |
| 破傷風菌                       |     |    |      |            | 1  |      |
| <i>Mycobacterium avium</i> |     |    | 1    |            |    | 1    |
| 不検出                        | 4   | 1  | 9    | 14         | 6  | 16   |

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 平成24年4月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 平成24年5月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成24年4月のアクセス件数、アクセス順位及び平成24年5月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については総務局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (平成24年4月)

平成24年4月の総アクセス数は、121,629件でした。主な内訳は、感染症66.7%、食品衛生13.0%、保健情報6.0%、検査情報月報4.5%、生活環境衛生2.1%、薬事0.9%でした。

### (2) アクセス順位 (平成24年4月)

4月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、第2位が「ロタウイルスによる感染性胃腸炎について」、第3位が「サイトメガロウイルス感染症について」でした。

マイコプラズマ肺炎は、年間を通じて常にアクセス件数が多くなっています。国立感染症情報センターの報告によると、マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、平成24年第14週(4月2日～8日)で、0.62まで減少しましたが、第16週(4月16日～22日)で0.79まで再び上昇し、第19週(5月7日～13日)では0.74を超えた水準で増減を繰り返しています。過去5年間の同時期と比較しても、かなり高い状態です。

表1 平成24年4月 アクセス順位

| 順位 | タイトル                   | 件数    |
|----|------------------------|-------|
| 1  | マイコプラズマ肺炎について          | 5,044 |
| 2  | ロタウイルスによる感染性胃腸炎について    | 4,150 |
| 3  | サイトメガロウイルス感染症について      | 3,997 |
| 4  | 衛生研究所トップページ            | 3,161 |
| 5  | クロストリジウム-ディフィシル感染症について | 2,777 |
| 6  | ポリオ(小児麻痺・急性灰白髄炎)について   | 2,357 |
| 7  | B群レンサ球菌(GBS)感染症について    | 1,961 |
| 8  | ぎょう虫(蟯虫)症について          | 1,854 |
| 9  | 学校感染症について              | 1,767 |
| 10 | 感染症発生状況                | 1,716 |

データ提供:総務局IT活用推進課

### 厚生労働省のマイコプラズマ肺炎に関するQ&A(一般の人向け) 平成23年12月

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou30/index.html>

「学校感染症について」は4月2日に当所のホームページを更新したこともあり、アクセス数が増加したと思われます。また、「ぎょう虫(蟯虫)症について」も学校保健法に基づく定期健診が4月から6月に行われる時期と重なりアクセス数が増加しています。

### 医薬品管理センター

<http://www.toyaku.or.jp/center/topics/gaityuu/99.html>

「ポリオ(小児麻痺・急性灰白髄炎)について」は、単独の不活化ポリオワクチンの導入時期が、9月に予定されていることから関心の高さが続いており、アクセス件数が増加しているのではないかと思われ、先月(4月)の10位から6位(5月)に上昇しています。

厚生労働省のポリオとポリオワクチンの基礎知識(平成24年5月18日改定)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/qa.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ(平成24年5月)

平成24年5月の問い合わせは、3件でした。(表2)

表2 平成24年5月 電子メールによる問い合わせ

| 内容               | 件数 | 回答部署         |
|------------------|----|--------------|
| クリプトコッカス髄膜炎について  | 1  | 感染症・疫学情報課    |
| ストラバイトについて       | 1  | 検査研究課食品添加物担当 |
| ミネラルウォーターの検査について | 1  | 検査研究課水質担当    |

2 追加・更新記事(平成24年5月)

平成24年5月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 平成24年5月 追加・更新記事

| 掲載月日  | 内容                       | 備考 |
|-------|--------------------------|----|
| 5月 1日 | 百日咳について                  | 更新 |
| 5月 1日 | 健康な妊娠・出産のために注意したい感染症について | 更新 |
| 5月 1日 | 髄膜炎菌性髄膜炎について             | 更新 |
| 5月 1日 | ムンプスについて                 | 更新 |
| 5月 1日 | 麻疹(はしか)について              | 更新 |
| 5月 8日 | 感染症に気をつけよう(5月号)          | 追加 |
| 5月 8日 | ロタウイルスによる感染性胃腸炎について      | 更新 |
| 5月 9日 | 病原体定点からのウイルス検出状況について     | 更新 |
| 5月18日 | 【パンフレット】熱中症に注意しましょう!     | 更新 |
| 5月21日 | 熱中症(熱射病、日射病)を予防しましょう     | 更新 |

【 感染症・疫学情報課 】